

地域広告賞

「つくっているのは、元気です」 加和太建設

◆ 2018 年 4 月 2 日 朝刊 全 15 段 <東部版>

◆ ハートフル CD: 中岡美奈子 (ドラフト) AD/D: 飯田郁 (ドラフト) C: 梅田大輔



はるか昔、長い時間をかけて
地球のプレートがこで衝突し、
富士山をはじめとする火山群や雄大な高原を生み出しました。
降り注ぐ雪や雨は層層に吸い込まれ、
美しい地下水となつて、山麓の各地でこんこんと湧きました。
豊かな水を求めて、生き物が集い、
人が暮らし、まちができました。
世界的にも類を見ない、
壮大な大地の物語を持つ伊豆半島の三島。
わたしたち加和太はこで育ちました。

地形を正確につかみ、
地面の奥深くまでを理解し、
水の流れや風雨、時の流れをも計算し、
強い構造物をつくりあげる。
土木とは、大地と人間の対話です。
生きていく地盤づくりです。
その地盤の上に、人の暮らし、
産業や文化を育む舞台を築き上げるのが建築です。
70年以上にわたり、わたしたち加和太は土木・建築という
事業を通じて、ときに厳しさも見える自然と、
人の暮らしの調和を生み出すお手伝いをしてきました。
多くの経験を通じて、
まちを形づくる技術を磨いてきました。

ものをつくるだけでなく、住まい探しのサービスや、
商業施設、飲食店、高齢者施設などの運営も手がけるようになると、
わたしたちはこのまちの暮らし、人のこころにふれるようになりまし
目を輝かせた子どもたち、生まれ育った地域に誇りを抱く大人、
年齢を感じさせないアクティブな高齢者の方たちに出会いました。
多くの情報や、まちづくりのアイデアが集まるようになり、
あらためて、静岡県東部地域の大きな可能性に気づかされたのです。

わたしたちには目標ができました。
それはわたしたちのまちを、
世界に注目される元気なまちにすることです。
人々が健康で、生き生きと交じり合い、チャレンジを忘れないまち。
ここに暮らし人や企業が、まちの将来を考え、議論し、形にしていくまち。
この地域の気質、伝統という宝物を敬いながら、
新たな文化が生まれるまち。
そのようになつたわたしたちの取り組みが世界に知られ、
世界中の人たちが視察に訪れるようなまちを静岡県東部につくりたい。
その実現のために加和太は働いていきたいのです。

誠実であること。よく学ぶこと。
仲間を巻き込み、あきらめることなくやり続けること。
変化を素直に、ワクワクしながら挑むこと。
情熱を持ったバカであること。
そんな行動指針で、まちを形づくる土木・建築の力、
暮らしや文化を盛り上げるサービスの力を総合させれば、
わたしたち加和太はもつとつと、
このまちの活性化に貢献することができると。
蓄えてきた高度な技術、地域のニーズを深くつかんだ情報力、
クリエイティブなアイデアを活用し、
多くの人たちとともに、地域の元気をつくる事業を
推し進めていきたいのです。

わたしたち加和太の行動が、
これからのまちづくりのモデルケースとなれば、
日本の地方ゼネコンの新しい可能性を示すことができる。
各地方で仲間ががんばれば、この国が元気になる。
世界のお手本になることができれば、
世界の元気に貢献できる。
地球規模の視点でものごとを考えながら、
このまちに根ざし、このまちの
一人ひとりのために働きます。
人のこころの元気から、
まちを、国を、世界を元気にします。

今日も、わたしたち加和太が
つくっているのは元気です。
これから
つくっていくのは元気です。

つくっているのは、元気です
加和太建設
www.kawata.org

【企画意図】

加和太建設は、これから地方ゼネコンとして、今まで培ってきた力を活かし、進化させます。静岡県東部の地域活性化のためにより強いアクションをおこし、事業を展開することを宣言。その思いに共感し、応援し、ともにめざそうという仲間とともに、その実行に向かいます。これからより強く邁進する加和太建設、そのあらたなスタートとして、新年度である 2018 年春、加和太建設の地元、静岡新聞東部版に広告出稿、同日に C I とホームページも一新しました。